

第3章 幸福感と他の実感の関係

分析の考え方

「幸福感」（問1）と「地域や社会の状況についての実感」（問2）及び「日ごろの暮らしについての実感」（問3）との関係について、また、問2問3の設問間の関係について、統計分析の手法により指標化を行い、どの項目が幸福感に影響を与えているのか、幸福感の向上に関して重要な項目は何か、といった観点から考察を行いました。

具体的には、次の二つの手法で分析しました。

- ・ 相関係数を算定し、二つの変数の相関関係を調べる。
- ・ 単回帰分析のモデルにおける回帰係数、決定係数を算定し、一方の変数の増減が他方の変数にどのくらい影響を与えるか調べる。

なお、本章では、母集団（県民全体）に関する推定は行わず、標本（有効回答のあった5710人）に限定した分析としました。

〔用語解説〕

相関係数 詳細は資料編 10～11 頁に掲載

「相関係数」は、二つの変数(いろいろな値をとりうるもの)の直線的な関係の強さを表す指標で、-1 から +1 までの値をとります。一方の変数の値が大きいほど他方の変数の値も大きくなる傾向があるとき、「相関係数」は正となり、正の相関関係があると言います。

今回の場合、相関係数が1に近いほど、幸福感と他の実感の相関関係は強くなります。

回帰分析・回帰係数・決定係数 詳細は資料編 11 頁に掲載

二つの変数について一方の変数の変化が他方の変数に与える影響を調べたりする場合、その方法の一つに回帰分析があります。回帰分析では、観測されたデータから「 $y = ax + b$ 」で表される回帰直線(xが変化するとyがどれだけ変化するかという関係を表す)を推定し、予測等を行います。このaが「回帰係数」(=直線の傾き)です。「決定係数」は、xがyをどの程度説明しているのかを表します。

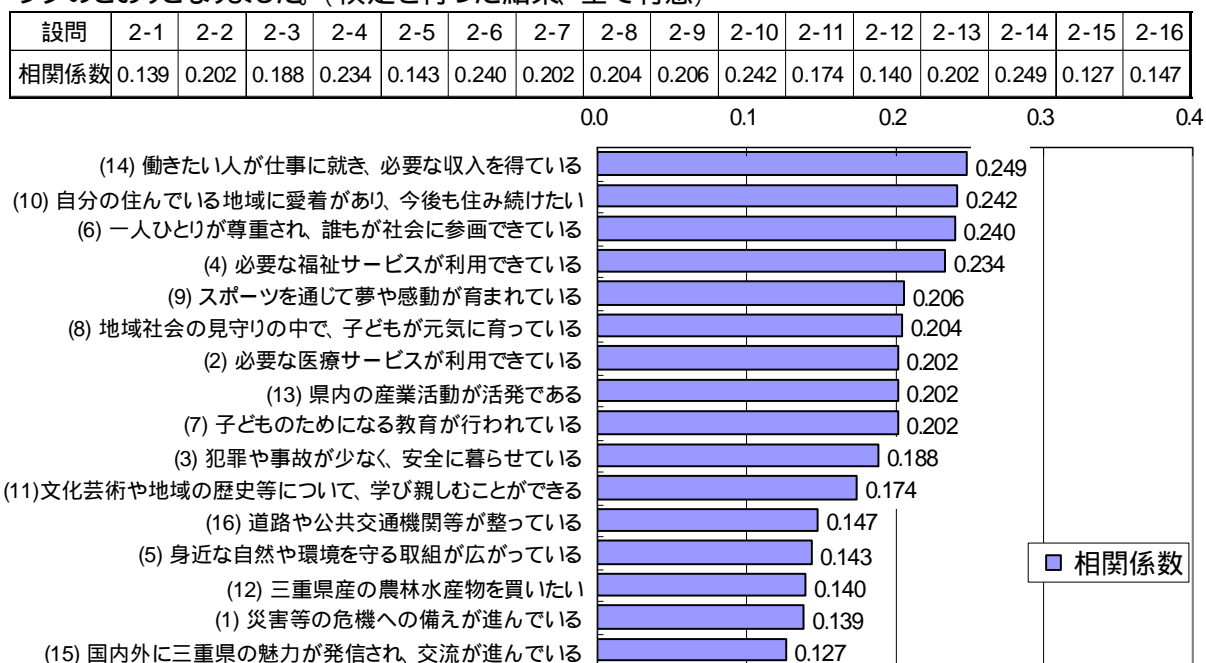
今回の場合、他の実感の変化が、幸福感にもたらす変化が大きいほど、回帰係数の値が大きくなります。

分析結果

1 問1と問2の関係について

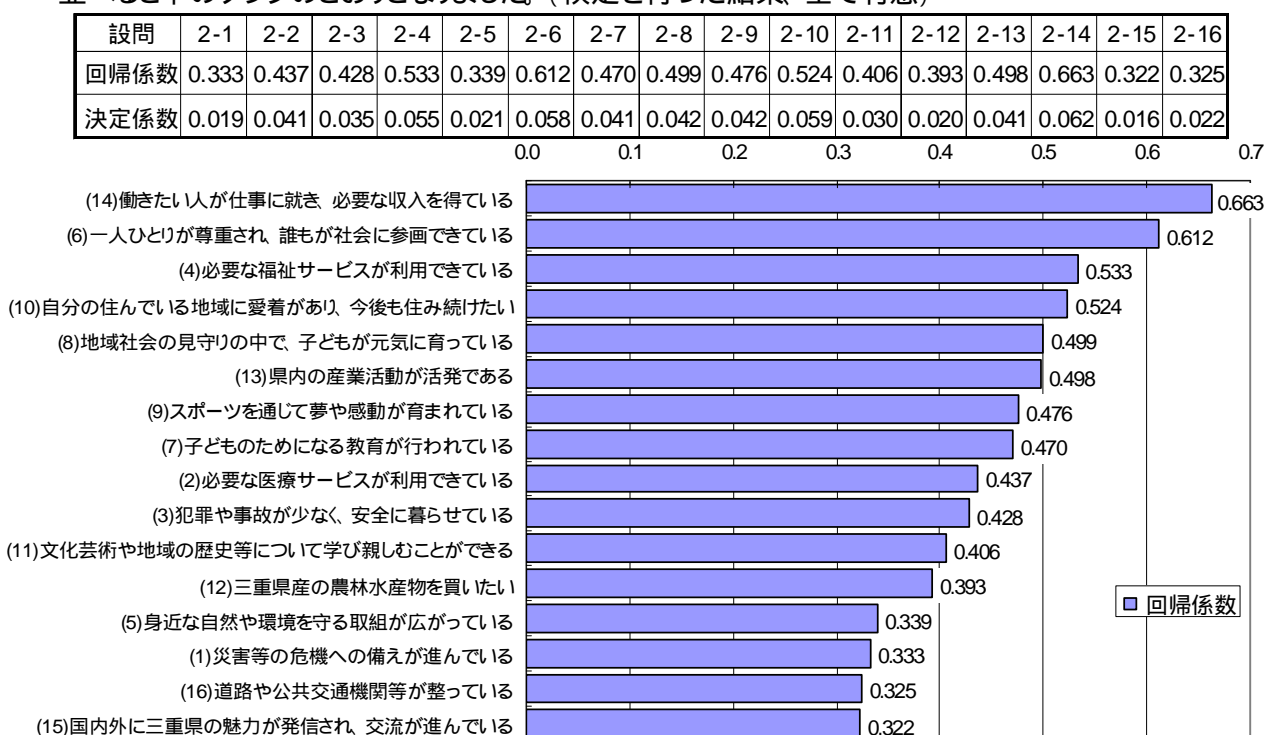
(1) 問1と問2の相関係数

問1(幸福感)と問2(地域や社会の状況についての実感)の各設問の組み合わせについて、相関係数を算定したところ、その結果は下表のとおりで、相関係数が高い設問の順に並べると下のグラフのとおりとなりました。(検定を行った結果、全て有意)



(2) 問1と問2の回帰分析

(1)の結果から、問1と問2の各設問の間に一定の相関関係があることが判明したことを踏まえ、回帰係数と決定係数を算定したところ、その結果は下表のとおりで、回帰係数が高い設問の順に並べると下のグラフのとおりとなりました。(検定を行った結果、全て有意)



【要点】

問1（幸福感）と問2（地域や社会の状況についての実感）の各設問の組み合わせについては、相関係数が0.1～0.3の範囲であることから、正の相関関係があり、問2の各設問について実感している人ほど幸福感が高いという関係にあります。

相関係数が比較的高い問2の設問を、高い順に並べると以下のとおりです。

「2-14 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」

「2-10 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」

「2-6 一人ひとりが尊重され誰もが社会に参画できている」

「2-4 必要な福祉サービスが利用できる」

16の「地域や社会の状況についての実感（幸福実感指標に係る実感）」のうち、これらの設問に係る実感は、幸福感との相関関係が比較的強いと考えられます。

問1と問2の各設問の組み合わせに係る回帰係数は、0.3～0.7の範囲であり、特に問2の次の設問が高くなっています。例えば、2-14の回帰係数は0.663であり、2-14の回答が、「どちらかといえば感じない」から「どちらかといえば感じる」へと一段階上がると、幸福感は0.663点上がるという関係にあることを意味しています。

「2-14 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」

「2-6 一人ひとりが尊重され誰もが社会に参画できている」

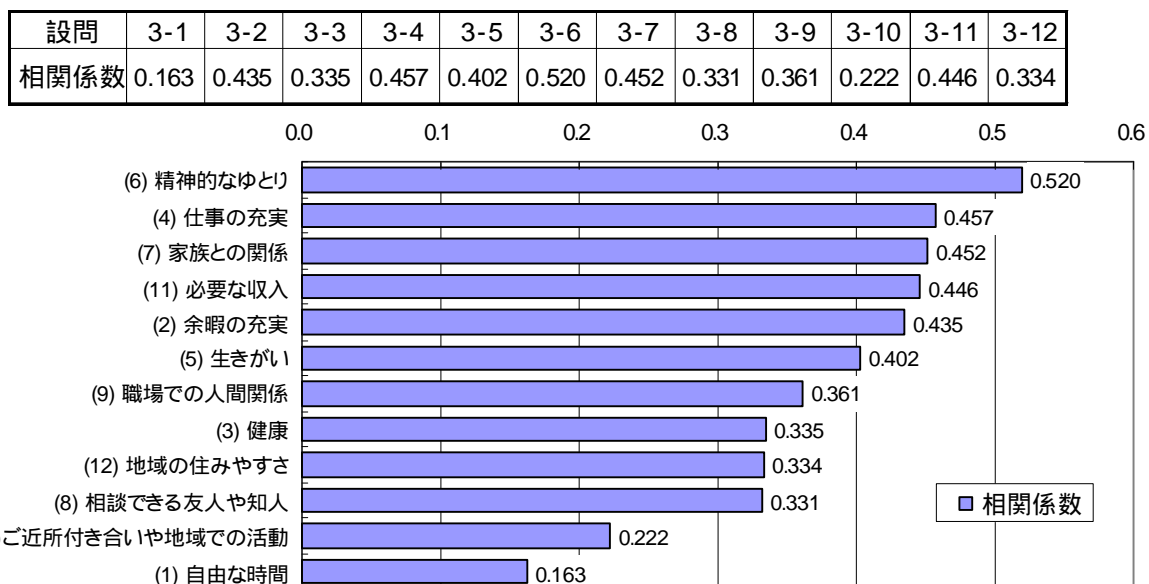
これらの設問は、他の問2の設問に比べて、その回答の変化が幸福感に与える影響が特に大きいことから、これらの設問に係る実感が幸福感に与える影響も同様に大きいと考えられます。

一方、各組み合わせとも決定係数の値が、0.01～0.07の範囲にとどまっていることから、個々の「地域や社会の状況についての実感（幸福実感指標に係る実感）」が幸福感に一定の影響を及ぼすものの、県民の幸福感は「地域や社会の状況についての実感（幸福実感指標に係る実感）」も含むさまざまな要素で構成されている、と言えます。

2 問1と問3の関係について

(1) 問1と問3の相関係数

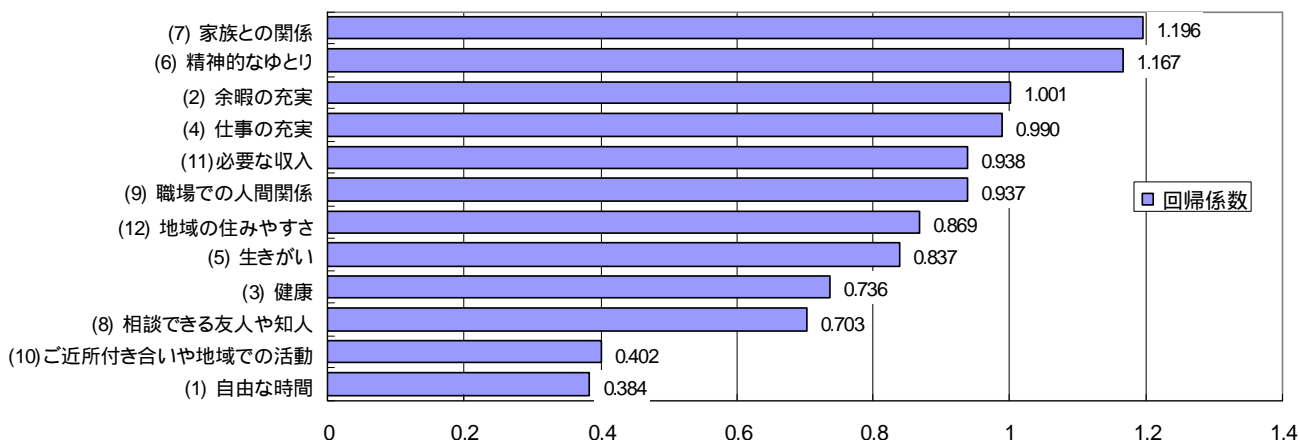
問1(幸福感)と問3(日ごろの暮らしについての実感)の各設問の組み合わせについて、相関係数を算定したところ、その結果は下の表のとおりで、相関係数が高い設問の順に並べると下のグラフのとおりとなりました。(検定を行った結果、全て有意)



(2) 問1と問3の回帰係数

(1)の結果から、問1と問3の各設問の間に一定の相関関係があることが判明したことを踏まえ、回帰係数と決定係数を算定したところ、その結果は下の表のとおりで、回帰係数が高い設問の順に並べると下のグラフのとおりとなりました。(検定を行った結果、全て有意)

設問	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12
回帰係数	0.384	1.001	0.736	0.990	0.837	1.167	1.196	0.703	0.937	0.402	0.938	0.869
決定係数	0.027	0.189	0.112	0.209	0.162	0.270	0.204	0.110	0.130	0.049	0.199	0.112



【要点】

問1(幸福感)と問3(日ごろの暮らしについての実感)の各設問の組み合わせについては、相関係数が0.1~0.6の範囲であることから、正の相関関係があり、問3の各設問について肯定的に感じている人ほど幸福感が高いという関係にあります。

相関係数が比較的高い問3の設問を、高い順に並べると以下のとおりです。

- 「3-6 精神的なゆとり」
- 「3-4 仕事の充実」
- 「3-7 家族との関係」
- 「3-11 必要な収入」
- 「3-2 余暇の充実」

12の「日ごろの暮らしについての実感」のうち、これらの設問に係る実感は、幸福感との相関関係が比較的強く、中でも、「3-6」は唯一0.5を超えており、特に強い関係があると考えられます。

問1と問3の各設問の組み合わせに係る回帰係数は、0.3~1.2の範囲であり、特に問3の次の設問が高くなっています。例えば、3-7の回帰係数は1.196であり、3-7の回答が「どちらかといえば良好でない」から「どちらかといえば良好である」へと一段階上がると、幸福感は1.196点上がるという関係にあることを意味しています。

- 「3-7 家族との関係」
- 「3-6 精神的なゆとり」

これらの設問は、他の問3の設問に比べて、その回答の変化が幸福感に与える影響が特に大きいことから、これらの設問に係る実感が幸福感に与える影響も同様に大きいと考えられます。

問1と問3の相関係数や回帰係数は、問1と問2(地域や社会の状況についての実感)のそれらと比べ全般的に高くなっており、県民の幸福感は、「地域や社会の状況についての実感(幸福実感指標に係る実感)」よりも、「日ごろの暮らしについての実感」との関係がより強いと考えられます。

また、問1と問3の相関係数や回帰係数の値は、問1と問2のそれらと比べ、バラツキがあり、12の「日ごろの暮らしについての実感」については、幸福感との関係の強さに大きな差があると言えます。

決定係数の値については、0.04~0.27と、問1と問2の場合に比べ広い範囲にあります。問1と問2の場合と同様、個々の「日ごろの暮らしについての実感」が幸福感に一定の影響を及ぼすものの、県民の幸福感は「日ごろの暮らしについての実感」も含むさまざまな要素で構成されている、と言えますが、「日ごろの暮らしについての実感」に関しては、「3-6」をはじめ、比較的強い影響を及ぼすものが見られます。

3 問2の設問間の相関関係について

問2(地域や社会の状況についての実感)の設問間の相関係数を算定したところ、その結果は下表のとおりとなりました。(検定を行った結果、全て有意)

	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10	2-11	2-12	2-13	2-14	2-15	2-16
2-1		0.314	0.173	0.295	0.346	0.292	0.296	0.237	0.213	0.165	0.245	0.096	0.262	0.169	0.285	0.203
2-2			0.296	0.536	0.273	0.340	0.364	0.292	0.203	0.221	0.254	0.131	0.271	0.272	0.207	0.269
2-3				0.362	0.218	0.302	0.283	0.300	0.154	0.193	0.130	0.107	0.145	0.215	0.133	0.170
2-4					0.383	0.424	0.397	0.350	0.252	0.268	0.330	0.133	0.289	0.301	0.293	0.277
2-5						0.458	0.401	0.312	0.276	0.194	0.351	0.130	0.325	0.245	0.335	0.222
2-6							0.503	0.379	0.280	0.236	0.348	0.110	0.323	0.377	0.352	0.250
2-7								0.549	0.312	0.233	0.318	0.112	0.358	0.333	0.350	0.289
2-8									0.385	0.272	0.279	0.196	0.301	0.282	0.262	0.249
2-9										0.233	0.313	0.209	0.284	0.222	0.285	0.222
2-10											0.362	0.242	0.205	0.173	0.175	0.211
2-11												0.210	0.361	0.255	0.355	0.241
2-12													0.256	0.087	0.150	0.103
2-13														0.393	0.446	0.294
2-14															0.355	0.275
2-15																0.326
2-16																

また、上記結果から、16の設問の相互の関係性を把握するため、相関係数を五つの段階に区分し、各設問の相関係数の数を下表に整理しました。さらに傾向がより分かりやすくなるよう、0.3以上の相関係数について、設問毎にそれらの数を示すとともに、次ページに図示しました。

問2の設問	0.5以上	0.4以上 0.5未満	0.3以上 0.4未満	0.2以上 0.3未満	0.2未満	0.3以上
2-1 災害等の危機への備えが進んでいる			2	9	4	2
2-2 必要な医療サービスが利用できている	1		3	10	1	4
2-3 犯罪や事故が少なく、安全に暮らしている			3	4	8	3
2-4 必要な福祉サービスが利用できている	1	1	6	6	1	8
2-5 身近な自然や環境を守る取組が広がっている		2	6	5	2	8
2-6 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている	1	2	7	4	1	10
2-7 子どものためになる教育が行われている	2	1	7	4	1	10
2-8 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている	1		6	7	1	7
2-9 スポーツを通じて夢や感動が生まれている			3	11	1	3
2-10 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい			1	9	5	1
2-11 文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができる			8	6	1	8
2-12 三重県産の農林水産物を買いたい				4	11	0
2-13 県内の産業活動が活発である		1	6	7	1	7
2-14 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている			5	7	3	5
2-15 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる	1		6	5	3	7
2-16 道路や公共交通機関等が整っている			1	12	2	1

【要点】

問2(地域や社会の状況についての実感)の設問間については、相関係数が0~0.6の範囲であることから、正の相関関係があり、ある設問について実感している人ほど別の設問についても実感しているという関係にあります。また、設問によって相関係数は大きく異なり、他の設問との関係が強いものから弱いものまで多様です。

次の設問は、他の設問との相関関係が比較的強くなっています。

- 「2-4 必要な福祉サービスが利用できている」
- 「2-5 身近な自然や環境を守る取組が広がっている」
- 「2-6 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている」
- 「2-7 子どものためになる教育が行われている」

中でも、「2-6」と「2-7」は、特に強いと言えます。

一方、次の設問は、他の設問との相関関係が弱くなっています。

- 「2-12 三重県産の農林水産物を買いたい」

【要点】

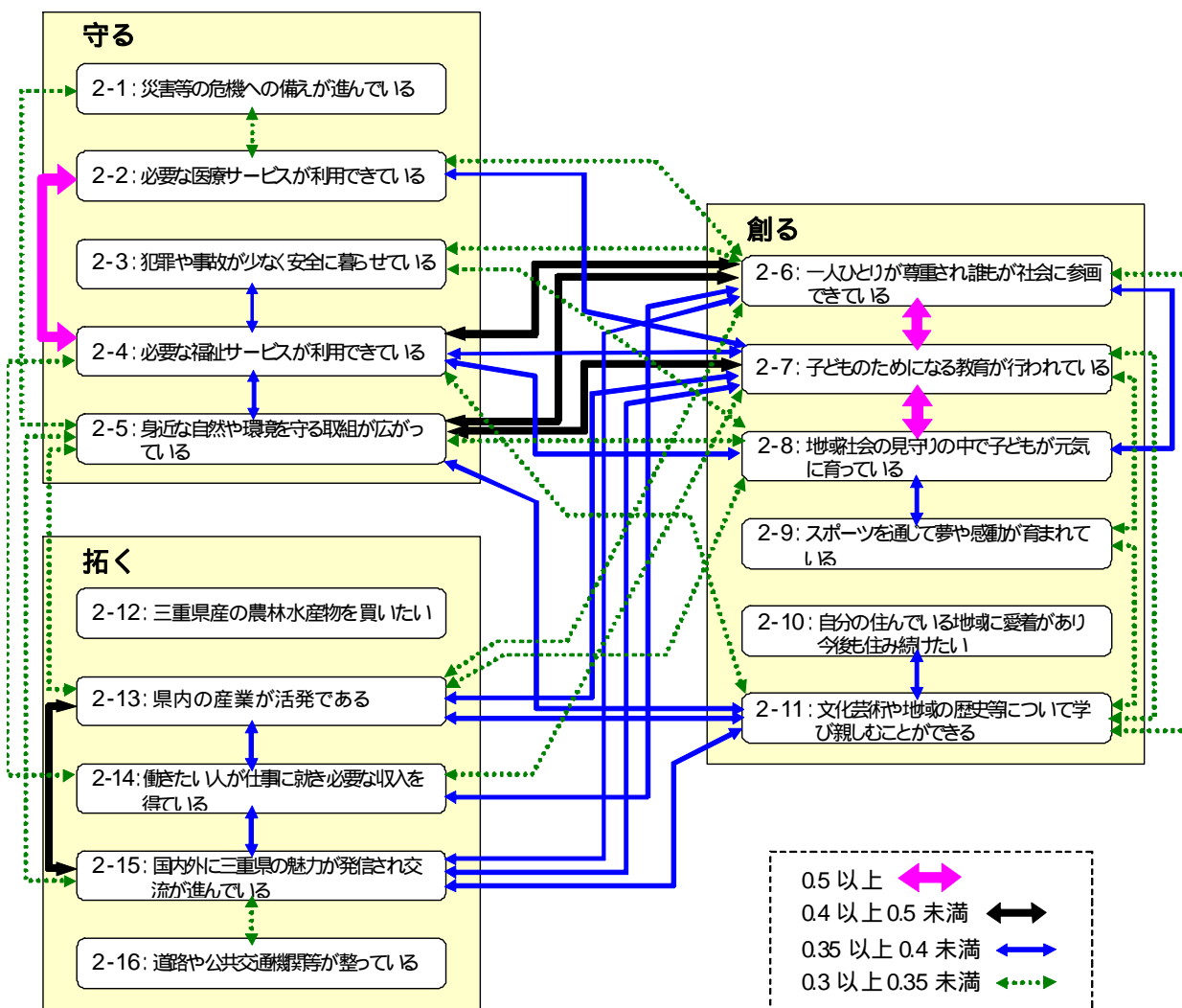
また、各設問の幸福実感指標が対応する政策分野が位置づけられている政策展開の基本方向（三つの柱： 守る、 創る、 拓く）ごとにグループ化し、設問間の関係を見ると、一つの基本方向の中で、相互の関係が強い設問群があり、それらについては、他の基本方向の設問間との関係も比較的強い傾向が見られます。例えば、

- 「2-6 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている」
- 「2-7 子どものためになる教育が行われている」
- 「2-8 地域社会の見守りの中で子どもが元気に育っている」

- 「2-13 県内の産業が活発である」
- 「2-14 働きたい人が仕事に就き必要な収入を得ている」
- 「2-15 国内外に三重県の魅力が発信され交流が進んでいる」

問2の設問間の相関関係（相関係数0.3以上）

問2の設問間の相関関係について、設問をそれぞれの幸福実感指標が対応する政策分野が位置づけられている政策展開の基本方向（三つの柱： 守る、 創る、 拓く）ごとにグループ化したうえで、相関係数0.3以上のものについて図示しました。



4 問3の設問間の相関関係について

問3(日ごろの暮らしについての実感)の設問間の相関係数を算定したところ、その結果は、下表のとおりとなりました。(検定を行った結果、全て有意)

	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12
3-1		0.489	0.090	0.086	0.082	0.401	0.154	0.088	0.108	0.065	0.109	0.138
3-2			0.335	0.373	0.398	0.553	0.331	0.298	0.286	0.177	0.270	0.280
3-3				0.412	0.311	0.374	0.272	0.249	0.321	0.126	0.252	0.249
3-4					0.416	0.440	0.276	0.288	0.500	0.208	0.448	0.282
3-5						0.429	0.318	0.372	0.309	0.226	0.250	0.233
3-6							0.426	0.333	0.361	0.201	0.405	0.305
3-7								0.345	0.351	0.181	0.253	0.299
3-8									0.378	0.245	0.221	0.232
3-9										0.230	0.294	0.261
3-10											0.159	0.211
3-11												0.281
3-12												

また、上記結果から、12の設問の相互の関係性を把握するため、相関係数を五つの段階に区分し、各設問の相関係数の数を下表に整理しました。さらに傾向がより分かりやすくなるよう、0.3以上の相関係数について、設問毎にそれらの数を示すとともに、次ページに図示しました。

問3の設問	0.5以上	0.4以上 0.5未満	0.3以上 0.4未満	0.2以上 0.3未満	0.2未満	0.3以上
3-1 自由な時間		2			9	2
3-2 余暇の充実	1	1	4	4	1	6
3-3 健康		1	4	4	2	5
3-4 仕事の充実	1	4	1	4	1	6
3-5 生きがい		2	5	3	1	7
3-6 精神的なゆとり	1	5	4	1		10
3-7 家族との関係		1	4	4	2	5
3-8 相談できる友人や知人			4	6	1	4
3-9 職場での人間関係	1		5	4	1	6
3-10 ご近所付き合いや地域での活動				6	5	0
3-11 必要な収入		2		7	2	2
3-12 地域の住みやすさ			1	9	1	1

【要点】

問3(日ごろの暮らしについての実感)の設問間については、相関係数が0.01~0.6の範囲であることから、正の相関関係があり、ある設問について肯定的に感じている人ほど別の設問についても肯定的に感じているという関係にあります。また、設問によって相関係数は大きく異なり、他の設問との関係が強いものから弱いものまで多様です。

次の設問は、他の設問との相関関係が比較的強くなっています。

- 「3-6 精神的なゆとり」
- 「3-4 仕事の充実」
- 「3-2 余暇の充実」
- 「3-9 職場での人間関係」
- 「3-5 生きがい」

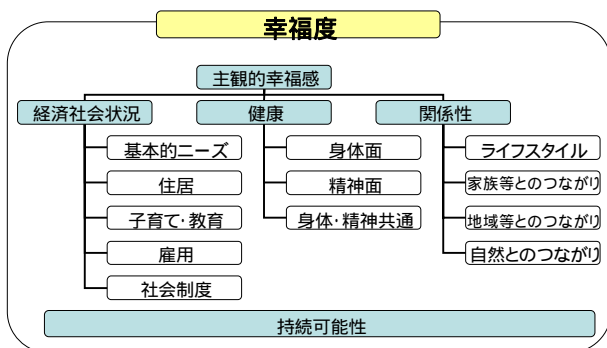
中でも、「3-6」は、特に強いと言えます。

一方、次の設問は、他の設問との相関関係が弱くなっています。

- 「3-10 ご近所付き合いや地域での活動」

問3の設問間の相関関係（相関係数0.3以上）

問3の設問間の相関関係について、内閣府「幸福度に関する研究会」における幸福度指標案の体系を参考に分類・グループ化し、相関係数0.3以上のものについて図示しました。



「幸福度に関する研究会」における幸福度指標案の体系（研究会報告をもとに戦略企画総務課が作成）

「幸福度に関する研究会報告」の内容をもとに、以下のとおり分類しました。なお、「生きがい」については、関連する項目が見当たらないため、単独の項目として整理することとします。

内閣府研究会幸福度指標案体系の分類項目		問3の設問項目
経済社会状況	基本的ニーズ	必要な収入
	住居	地域の住みやすさ
	雇用	仕事の充実、職場での人間関係
健康	身体面	健康
	精神面	精神的なゆとり
関係性	ライフスタイル	自由な時間、余暇の充実
	家族等とのつながり	家族との関係、相談できる友人や知人
	地域等とのつながり	ご近所付き合いや地域での活動

